



## 思いやりと幸せの連鎖

八戸市立大館学校 3年 水石萌菜

真っ白い画面の中に、一枚の赤い羽根。そして「たすけ合い」の文字がやさしく躍る。その画像が私の記憶の中に残っています。それがテレビだったのか、ポスターだったのかはあいまいですが、優しさの中にも強い正義を感じさせる真っ赤な羽根のことは、今でもはっきりと覚えています。

幼い頃、私はその赤い羽根が欲しくて、募金していました。でも、少し大きくなると、あの募金箱の中のお金は何に使われるのかと不思議に思うようになりました。母に聞くと

「世の中の困っている人や助けを必要としている人を救うために使われているんだよ。」

と教えてくれました。それを聞いて、赤い羽根にこめられたみんなの思いは強いものだということに気がきました。人々の「助け合い」の思いがたくさんたくさんつまっているような気がして、赤い羽根がやさしく感じるのは、そのせいなのかなと思いました。

人間は決して一人では生きられない存在です。必ず支えたり支えられたりして生きるものです。ですから自分だけが幸せということは考えられないとこだと思います。自分が幸せならば、その幸せを周りの人にも少し分けてあげます。そして、自分が助けを必要とした時には、周りに求めます。そんな生き方が人としての自然な生き方であり、望ましい絆のあり方であると思います。長い人類の歴史の中で培ってきた「絆のあり方」が、赤い羽根共同募金の基礎と重なることを知り、とても感動しました。

たすけ合いの精神に、国境はありません。差別もありません。「人類みな兄弟」という大きな考え方が私は大好きです。そしてそれが赤い羽根にこめられていると思うのです。

人間はこの世に生まれた時、平等に「命」をもらい受けます。でも、それぞれが与えられたものには平等とは言えない要素もたくさんあります。貧しい環境、様々な障害、病気、いろいろあることでしょう。でもそれは助け合えるのです。募金箱に入れられたお金は、幸せという名のプレゼントに姿を変え、助け合いに使われることになるのです。幸せのおすそわけは、みんなをより幸せにします。幸せを与えた人、与えられた人、みんなの幸せが実現されることでしょう。本当にすばらしいことだと思います。

私にできることはほんの小さいことかもしれませんが、でも、一人一人の小さい思いやりが集まって、それが誰かの幸せにつながるならば、自分も幸せな気持ちになるのです。それが思いやりと幸せの連鎖だと、私は思うのです。

世の中の人々の思いやりが、赤い羽根にのって多くの人に届けられる、そんな幸せな世の中になることを願い、私も協力し続けたいと思います。